

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775002831		
法人名	株式会社 中和会		
事業所名	中和会グループホーム ときめき苑 (すみれ)		
所在地	東大阪市御厨東2丁目2-23		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ときめき苑では、利用者様の希望を盛り込んだ季節感溢れる楽しい行事を毎月企画しています。利用者様、家族様の要望を可能な限り反映させて頂いた企画は年々内容も充実してきており喜ばれています。各ユニットごとに掲示している行事写真は利用者様だけでなく面会時に家族様に見てもらったり、“ときめき苑便り”でもご紹介しています。行事での外出だけでなく日常的な外出で近隣の方との交流にも努めています。また、安心して安全な入浴をして頂くために特殊浴槽を取り入れました。車いすの方など足の不自由な方が楽に入浴が出来ます。ホームには看護師を配置しており在宅療養支援診療所である中西医院より、24時間体制で医療サポートの対応を受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の特長は、系列母体の医療法人(中西医院、訪問看護事業所)と連携した万全の医療支援体制と家族が希望すれば「終の棲家」として対応してくれる経験豊富な職員の対応力である。また、家族と協力しながら利用者を支えていく事業所の方針をバックアップする家族の存在は大きい。そして事業所で暮らす利用者を支える地域の支えの強さ特長のひとつである。御厨盆踊り、花火、お菓子作り、敬老会&家族会、お誕生日会、商業大学芸能大会等々参加行事を多く企画して家族にも呼びかけて、利用者、家族そして職員が一緒になって暮らしを楽しみながら利用者を支えている事業所である。一方、職員も自分の目標を設定し質の高いサービスを提供すべく自己研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ときめき苑の理念は、ミーティングで周知しエレベーターホールに掲示している 管理者、職員は常に理念を共有し常に確認、意識できるようにしている	「ご利用者様が地域との交わり合いの中で、生きがいをもち暮らし、安心して家庭的な生活を送れるようにします」との理念が玄関及びEVホールに掲示され、職員の行動指針となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御厨自治会主催の盆踊りへの参加や秋の地車曳行披露の見物、年末の餅つきでは自治会長や地域の方が参加され師走の行事と一緒にいった 又、地域のイベントにも積極的に参加している	地域との交流に積極的に取り組んでいる。事業所の移転の際にも元の自治会から現自治会に事業所支援の引継ぎがされるなど、自治会の協力度も大きい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座をデイサービスフロアで開催し(平成24年10月)利用者家族及び地域の方やスタッフが接し方理解の仕方を学んだ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、行事紹介や施設管理に関する報告、参加している地域の方々からの情報交換を行っている 参加利用者や家族からの意見や要望はサービス向上に努めている 議事録は全家族に公表している	2ヶ月に1回の会議には家族が参加する行事を企画して多数の家族の協力が得られている。地域との交流、防災対策、行政情報等の議題について地域の代表者と家族の意見交換が行われ、事業所は運営面の参考情報として活用している。	「年間研修計画」など、より質の高いサービスを目指している職員の取り組み内容も会議で情報発信しては如何。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東大阪市福祉部指導監査室、施設課とは運営に関する相談があれば随時行っている 行政への書類提出は窓口まで出向き、質向上に向け連携を取っている	東大阪市の担当窓口や地域包括支援センターと、利用者個別の事例や事業所の運営について報告・相談が出来る協力関係及び連絡体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的開催、関連の内部研修(平成25年9月)を実施し、スタッフの認識を深め防止に努めている 又、行動制限を行う場合定期的に見直すためのカンファレンスを実施している	利用者ごとのケースについて身体拘束をしない支援方法を職員間で話し合い、定期的開催される身体拘束委員会で、利用者のカンファレンスを実施して、対応方法を決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連の内部研修(平成25年9月)を実施し、スタッフで認識を深め防止に努めている 外部研修に出席し伝達研修として活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域包括支援センターに相談している事例があり今後制度活用予定である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、口頭と文章で分かり易く行い不安や疑問などは表情からも読み取り丁寧に対応している 理解・納得した上で契約を結んで頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満などは日常会話などから探り出し要望に応じられるよう努めている 家族からは、各フロア設置の意見箱や面会時の会話、運営推進会議などで意見を聴き反映している	家族の来訪、行事への参加、運営推進会議、サービス評価への家族の協力など家族の関心度が高く、職員も誠実に対応して、家族の意見を日常の介護支援に反映して、信頼感を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を随時行い職員の意見を聞く場を設けている 又、統一したテーマを作り個々に目標管理シートに記入してサービスの質向上に努めている毎月開催しているミーティングでも活発な意見が出ている	職員には目標管理制度を導入し、仕事の達成感、喜びにつなげるようにしている。代表者、管理者、職員のコミュニケーションは良好で、ミーティングでもいろいろな意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のそれぞれの個性を活かし、やりがいの持てる職場環境を作り、個々の努力や実績をしっかりと把握するように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人が勧める内容と現場で自由に選択できる内容になっている 職員による内部研修は実技指導も含み職員を育てる仕組みを作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者認知症協会の研修会・地域密着型サービス事業者部会・高齢者地域ケア会議等で同業者との交流を図っている 近隣の同業者と相互訪問を行ったり情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る迄管理者、計画作成担当者、看護師等の職員が必要に応じてご本人や家族と面談を行い話をしっかり聞く事を大切にしている 又、利用していた在宅サービス事業所からの情報収集にも努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはこれまでの生活状態、心身状態を聞き取り家族の思いを理解し相談に応じられる体制は常にある 話をよく聴き受け止め関係を築く努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により地域包括支援センター・担当介護支援専門員に対応を相談するケースもある 何が必要かを見極め事業所だけで抱え込む事のない様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支援する立場だけでなく日常生活における人生の先輩としての知恵や技を教えて頂いている 又、外出行事では支援しつつ職員も共に楽しめる充実した内容を企画している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は随時行っている 特に、家族の方にも参加して頂きやすい行事を増やし家族の絆を大切にしている 又、面会時には職員から声掛けし近況を伝えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会や電話の取次ぎ等の対応は行っている 面会者との楽しいひと時を大切にするために挨拶や接待など配慮をしている 行きつけの美容室や墓参りなどの外出は出掛けやすいように支援している	利用者の入居以前からの生活や馴染みの関係の維持に努めている。知人との面会、墓参、馴染みの場所への外出など家族と協力して利用者を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わり合いが持てるように話題を提供したり、会話のサポートや歌・ゲームで共に暮らしを楽しめるよう支援している 又、毎日のラジオ体操の時間を活用し馴染みの関係を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個別の事情で苑を離れても家族や入所先の事業所の方と会った時に様子を伺ったり、入院先に立ち寄った時に様子を聞く等して常に気にかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をサポートする中から本人のあらゆる会話や行動から希望、要望などを示すサインと捉え意向の把握に努めている 情報を共有しながらサービス計画に生かす努力をしている	本人の希望や家族の意向を聞き、生活歴や趣味、嗜好などの情報を収集してプロフィールに記録し、全職員で共有している。日常の細かな表情、発言からも意向を察するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の意思が決まれば必ず自宅または入居施設や病院に訪問し、これまでの暮らしの把握に努める 又、これまで関わりのあった他事業所からも情報を収集するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者を職員全員で見つめ、出来る事・分かる事を生活の中で活かし常に現状を見定めてケアにあたっている 心身の些細な変化を捉え、ケアに繋げていけるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり職員からの情報収集や会議を開催し家族の面会時に聞き取りやモニタリング、介護計画の見直しにも確認印を頂いている 主治医からの居宅療養指導書も計画に反映している	本人の暮らしへの希望や家族の思いを聞き取り、医師や関係者の意見を参考にして、計画作成担当者を中心に職員で話し合い、目標、支援方法を計画書にまとめている。介護計画を家族に説明して、同意を得ている。定期的にカンファレンスを行い計画書の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別の健康管理と経過を記入し、それらの情報を職員が共有し日常生活での利用者の様子や自ら発した言葉や行動を記録しケアに活かしている 個別記録を元に計画作成担当者が支援の方向性を示している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内を自由に活動することが出来る環境で、他事業所の職員とも馴染みの間柄になっている デイサービスでのボランティアのイベントにも参加し、交流を持ちながら一緒に楽しむ機会を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では地域の方にゲストとして参加を呼びかけている 又、月1回の地域包括支援センターのイベントにも希望者は参加させて頂いている 年1回防火訓練時には西消防署による指導を受けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間安心な医療サポートを中西医院より受けている 契約時に協力医が定期的に診察する事を説明し同意を得るようにしている 他科受診は車での送迎、職員同伴で適切な医療が受けられるよう支援している	本人及び家族の希望を優先した医療支援をベースにかかりつけ医を決めている。往診時の主治医による「居宅療養管理指導」を計画に反映させ、看護師の協力を得て健康状態を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の日々の健康状態や情報に留意し看護師に報告し協働で対応している 又、常勤の看護師が健康管理簿を記入し健康状態の経緯が解るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は利用者に関する医療情報を早期に提供している、医療機関と主治医の間では情報交換行われ内容報告も頂いている 退院の際には入院先のソーシャルワーカーや家族と連絡を取り協働で対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医・看護師・介護職それぞれに役割を心得て連携をとっている 又、計画作成担当者により、看取り介護計画書を作成し会議を通し支援内容について周知対応している	開設時より終末期への対応方針を明確にし、家族が希望すれば、終の棲家としての受入れを行っている。看取りに関する職員の意識・協力度も高く、マニュアル等の整備も出ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急対応の体制を整え夜間緊急要員を配置している 応急手当や初期対応は内部研修や看護師による指導により実践力を身に付けている 各ユニットにもマニュアルを備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を平成24年11月1日付けで更新した 災害対策の訓練も定期的実施している 備蓄品の確認、職員による防災活動隊の役割の明確化や緊急連絡網の活用など地域にも発信し協力体制を築いている	管理者が「防火管理者」の研修を受講し、組織として防火防災への取組みを真剣に行っている。防災への取組みを家族へも報告し、家族も訓練の内容・レベルを理解している。	消火器の場所確認、通報装置の操作、避難路の確保、避難誘導マニュアル、等々日常からの職員の防災意識を高める仕組み(例えば毎月の防災の日の設定)を検討出来ないか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が社会人、職業人として常にプライバシーの確保に心がけ適切な対応をしている	利用者の個人情報保護やプライバシーへの配慮等法令順守に関する内容や、接遇面の内部研修が徹底されている。職員の利用者への声かけ言葉遣い、音量は適度である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から聴き上手になり、言葉や表情、行動から本人の思いを意図的に引き出す会話を心掛け支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその方の生活リズムを大切にしながら希望に添った支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は整容や身だしなみの支援を行っている。理容・美容は2ヶ月に1回訪問カットを利用しているが中には個人の希望で家人の付き添いで美容室へ出かける方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は同じ食卓で一緒に食事を楽しんでいる 配膳や片付け等も出来る事は一緒に行っており、毎月2回お弁当や季節行事を楽しんで頂くためのごちそうの日を設けている	職員も利用者と同じ料理を、一緒に食卓を囲み、介助の必要な利用者に気を配りながら食事が行われているので、家庭的な温かみのある食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、管理栄養士が作成した栄養バランスの摂れたメニューであり、摂取量は健康管理表で確認できるようにしている 水分補給については、食事以外でも適宜行い夜間の水分摂取にも配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、本人が出来る部分には行ってもらう場合には職員が手伝っている。利用者によっては歯科衛生士の指導を受け数種類のブラシを使い分け口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し適宜声掛け誘導、介助を行なっている トイレの場所を迷われる方に対しては表示の仕方を工夫したり、尿意・便意のサインを見逃さないよう目配りしている	排泄チェックがきめ細かく行われている。事前の誘導を行い、トイレでの自立した排泄習慣の維持に努めている。トイレ誘導時の職員の声かけは羞恥心や自尊心に配慮した支援方法になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の調整は難しいが投薬や水分補給、繊維の多い食品等に気配りしている 午前中のラジオ体操等生活の中で腸を刺激するような運動を促し自然排便が出来る工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的な入浴もあるが利用者の希望に添う対応を行っている 体調面で入浴出来ない場合は清拭・手浴・足浴を行っている 入浴嫌いの方には声掛けやタイミングに合わせて入浴して頂けるよう支援している	ADLの高い利用者も特殊浴槽があるので、安全に入浴できる。週に2～3回は入浴するように「入浴チェック表」でフォローしながら、足浴・清拭を含めて支援している。一人ひとりがゆっくと入浴出来るように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息できるよう日中の生活リズムの確保に努めている 日中下肢の拳上にてむくみの軽減も図っている 又、季節に合わせた寝具や寝間着、空調にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本情報、服薬内容が解るカードックスをユニットごとに作成し、薬の文献も周知出来るようにしている 更に、看護師と介護職が服薬支援を行い症状の変化に気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での出来る事への役割に張り合いを感じてもらっている 又、イベントでの作品作り、行事やボランティア訪問による交流等で喜んで頂ける支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の外出は工夫し可能な限り希望に添った支援を心掛けている しかし、天候や職員配置等を考慮すると数名の外出支援となっている 年間行事に関わらず日常的な近所への散歩や買い物などの外出の機会を増やすよう努力している	天候と本人の体調や気分を見ながら外気に触れる機会作りを心がけている。「外出チェック表」を作って、散歩や買物など外出支援の強化を、意識して取り組んでいる。体操強化月間など設定してADLの維持確保にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を所持することで安心される利用者も数名おり、近所の店での買い物を楽しんで頂けるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望が有れば職員が電話の取次ぎを支援している 又、ハガキや季刊誌等は職員が代読し本人に渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快な音や光は入らない空調にも配慮し心地よく生活出来るように努めている 又、季節の貼り絵や屋上で育てた生花を飾ったりしている	2ユニットが1フロアにレイアウトされているが、ユニット毎に特徴がある設計となっている。採光、空調、音などにも配慮が感じられる。季節を感じさせる花や植物が置かれ、壁の飾りつけにも違和感はない。貼ってある行事写真も大きいサイズでわかりやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブル席と別にソファがあり思いによって好きな場所で過ごして頂け、気の合った仲間との談笑を楽しまれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の気持を尊重し出来るだけ使い慣れた家具や馴染みの物、好みの物を持ってきて頂き居心地良く過ごせるよう工夫している	居室は清潔に保たれ、明るく感じが良い。鏡台や仏壇など馴染みの家具等も適度に持込まれて、利用者がゆっくり落ち着けるように配慮され、工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりも設置されている 居室、トイレは誰が見てもわかる表示をしてあり、安全で自立した生活が出来るようスタッフ全員でサポートしている		